



Draft Ver2:260108版

「中頓別架け橋プログラム」

“施設分離型” 幼小中一貫義務教育学校「中頓別学園」

【認定こども園】

【中頓別学園】

こども園

前期
(1~4年生)

中期
(5~7年生)

後期
(8~9年生)



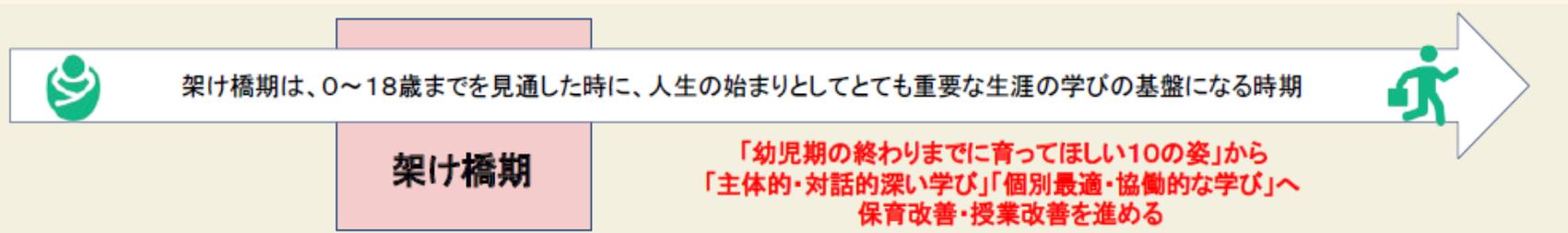
こども園から義務教育学校へなめらかにつなぐ「幼児教育積み上げ型」

12(15)年間切れ目のない学びで、一人一人の成長を支える

1, 中頓別学園の教育ビジョンと本プログラムのねらい



- ▶ 中頓別学園の教育目標『つくる・つながる・つみあげる』は、こども園からの一貫した教育で実現されます。こども園からの「12年後を見通したアプローチカリキュラム」を土台に、義務教育学校入学後の「9年間を見通したスタートカリキュラム」は、中頓別学園の教育目標へとなめらかにつなぐための重要な「架け橋」です。
- ▶ 年長～1年生の2年間を「架け橋期」ととらえますが、「中頓別架け橋プログラム」は、幼小中一貫教育をいかし、0歳～15歳までの「連続した成長と学びのつみあげ」を大切に進めます。
- ▶ 中頓別学園では、こども園から9年生までを1つの連続した学びの旅としてとらえます。これにより、園・小・中の中の段差をなくし、一人一人の子どもの長期的な発達と成長を支え「**中頓別架け橋プログラム**」が、各段階へのスムーズな移行を確実にします。前期・中期・後期についても、可能な限り指導・支援を架け橋し、長期的視点で学びを支える取り組み「**中頓別学園の育む子ども像**」を実現する「**持続的な保育改善・授業改善と児童生徒理解**」が目的です。





2, 中頓別学園の教育ビジョン

R8年度開校予定(仮校舎)

©中頓別町教育委員会新しい学校づくり推進室

幼小中一貫義務教育学校『中頓別学園』教育ビジョン

中頓別学園は、R9年度完成予定の「人生100年学びの拠点・中頓別学園」で教育活動を展開します

中頓別町教育大綱

未来思考 【共創】一緒にやってみる 【共生】まざる・きく・はなす 【好奇心】わくわくする

中頓別学園
教育目標
スクールポリシー

つくる つながる つみあげる

未来をつむぐ 居場所だらけの学校 「中頓別学園」

中頓別学園の教育目標

①つくる

- ・選び、考え、自ら決める
- ・主体的に学びの舵をとる
- ・多様な視点を持ち、協働で学びを深める

②つながる

- ・人とつながり、地域とつながる
- ・安心と信頼に根ざした関係を築く
- ・対話を重ね、豊かな心を育む

③つみあげる

- ・挑戦と経験を重ね、成長を喜びあう
- ・ありのままの自分を大切に、自分らしさを育む
- ・ウェルビーイングな未来を描き、歩む



中頓別学園の教育 4つの柱

- 1 「幼児教育積み上げ型」
▶こども園から取り組んでいる「体験活動や英語教育」を義務教育学校の学びへとつなげます
- 2 「先導的学び」
▶一人一人合わせた個別最適な学び、主体的学習者を育てる（UDL教育）を推進します
- 3 「教育委員会協働型」
▶地域と創る学校として、地域全体を学びの場とし積極的に地域協働の対話交流や学びを進めます
- 4 「教育と支援の融合」
▶一人一人の良さを育み、だれ一人取り残さない「居場所だらけの学校」を目指します

3, 幼小中一貫「中頓別学園の育む子ども像」

到達点	卒業の姿～中頓別だから実現できる、安心と挑戦の12年間～ 「自分の未来を、自分の言葉で語り、自分の足で歩きだせる15歳」				
到達の姿	①自分の進路について考え「主体的に選択・決定」できる子ども (じぶんの 未来を じぶんで えらべる子) ②多様な方法で自分の考えや思いを表現し「発信できる」子ども (じぶんの かんがえを いろいろな ほうほうでつたえられる子) ③さまざまな他者とつながり協働しながら「課題を解決できる」子ども (なかまとつながり きょうりょくして こまったことをかいけつできる子) ④中頓別に「誇りと愛着をもち主体的に関わることができる」子ども (なかとんべつの まちをたいせつにし かかわることが できる子) ⑤自分のよさやペースを理解し「自分なりの学び方で学び続けられる」子ども (じぶんのすき・とくい・ペースをしり すすんでまなべる子)				
	幼児期 【こども園】	前期 【1～4年生】	中期 【5～7年生】	後期 【8～9年生】	
めざす子どもの姿	遊び・感情・身体を通して「自分の芽」を育てる子 ○じぶんの「好き」を見つけ、遊びに夢中になる ○安心して、気持ちや感情を表現する ○五感で自然にふれ、「原体験」を重ねる ○大人との信頼のもと、安心して過ごす	学びの楽しさを知り、「挑戦の基礎」をつくる子 ○「できた！」の積み重ねを自信につなげる ○得意や苦手を知り、自分に合った学び方を選ぶ ○仲間と関わり、対話しながら学びに参加する ○地域の人・自然・文化を学びに取り入れる	興味や強みに気づき、「探究への橋渡し」ができる子 ○自分の興味や大切にしたいことに気づく ○つまずきを振り返り、改善の方法を選ぶ ○多様な方法で、考えや思いを表現する ○多学年の関わりの中で、協働性や社会性を伸ばす	自分らしい未来を見据え「自ら学び続ける力」をもつ子 ○自分の興味や価値、地域との関わりから、自分なりのミッションを見いだす ○多様な手段で考えを伝え、対話や議論を深める ○異なる価値観を尊重し、協働して課題解決に取り組む ○卒業後の学びにつながる、自己調整力を身につける	
支えと基盤	① 安心とWell-beingの基盤 ▶安全性・関係性・居場所の保障 ▶発達支持的生徒指導 ▶必要な支援やサポートを全ての子に ▶予防的・チーム支援 (教委 × 学園 × 地域)			② 個別最適×協働の学び×UDL (学びのユニバーサルデザイン) ▶自ら学びの舵を取る学び方、表現方法 ▶学習ログ、ポートフォリオ、AIドリルを活用しながら自己調整 ▶協働・対話による学び合いから深い学びへ	③ 地域とともにつくる学園 ▶地域の人・自然・文化を教材に ▶地域で育ち、地域に貢献し、地域を誇りに思う子へ ▶学園・家庭・地域・行政が同じビジョンで支える (多様な他者との関係の中で)

4, 「中頓別架け橋プログラム」準備の経過

【令和5年度】

- ▶「幼児教育積み上げ型」を教育の柱の1つにする、教育課程原案の策定。
- ▶アプローチカリキュラム期間に、「小学校養護教諭」「小中スクールカウンセラー」の乗り入れ活動開始。
- ▶園小中連携プロジェクトチームの結成と意見交流、園小中合同研修・協議の導入。 等

【令和6年度】

- ▶園小中合同協議・研修の定例化スタート(月1回)「新しい学校づくり委員会」
- ▶園小中教育委員会(教育支援センター)合同カンファレンス・支援会議等の導入。 等

【令和7年度】

- ▶4月:組織名称変更し中の参加体制づくり ▷幼小交流→「架け橋交流へ」 ▷幼小懇談→「架け橋ミーティングへ」
- ▶4月:園特別支援コーディネーター → 「架け橋コーディネーター」として運用開始
- ▶4月:スタートカリキュラム期間に、「架け橋コーディネーター」の小学校乗り入れ活動開始。(架け橋期の相互乗り入れ)
- ▶5月:架け橋ミーティング①
 - ・現行の園アプローチカリキュラム・小スタートカリキュラムの確認
 - ・架け橋の意義の確認 → 義務教育学校化しなくても必要
 - ・様式の統一、年長～1年生の2年間は最低限見通す → 今年度の協議内容と計画の策定
- ▶5月:架け橋交流①、架け橋ミーティング②
 - ・小学校参観、協議
- ▶7月:「放課後くれよん」小学生支援学級児童へのこども園を活用した療育プログラム開始
- ▶7月:園小中合同推進企画会議&分掌部長(学校代表者)会議
 - ・幼小中一貫教育課程と教職員組織原案の確認
- ▶9月～「森のこども園」体験研修へ小中教職員の参加(9月～3月まで交代で参加)→学び合い
- ▶9月:園小中地域合同「避難訓練&防災学校」実施 → 今後も継続
- ▶11月:小中合同研修「幼児教育積み上げ型説明研修」(教育委員会)実施
- ▶11月:架け橋ミーティング③
 - ・架け橋プログラムDraft版Ver1作成提示 → 継続協議 → 架け橋ミーティング④(2月に決定)

～「子どもをまん中に」できるプログラムからつくる・つながる・つみあげる～

7、「中頓別架け橋プログラム」全体デザイン

※R7年度までに部分実施中 R8年度から完全実施

	こども園(～年長)	← 具体的取り組み →	義務教育学校(1年生～)
保育指針から 学習指導要領へ	～学びの芽生え～ ▷学びの自立 ▷生活の自立 ▷精神的な自立	<p>●教育目標の具体化と日常化 →全教職員→毎日の保育と授業で ▷「つくる」考え、選び、自ら決める ▷「つながる」人、地域とつながり、対話を重ねる ▷「つみあげる」挑戦と経験を重ね、成長を喜び合う</p> <p>●教職員の学び合い、スキルアップ →架け橋CN、地域連携部、研修部 ▷「架け橋ミーティング(年3回)」 ▷「学園づくり委員会」→合同研修・研究 ▷「合同学校運営協議会」等</p> <p>●児童生徒交流 →地域連携部 ▷「学園探検(合同行事、行事見学、校舎利用、体験入学等)」 ▷「保育体験」(授業、夏休み、等)</p> <p>●相互支援活動 →架け橋CN ▷「架け橋支援」(～架け橋期) ▷「保護者面談支援」(～入門期)</p> <p>●相互乗入れ →指導支援部、特支CN、教務部 ▷養護教諭・栄養教諭▷SC、SSW、通級、特支CN、巡回支援相談 ▷支援ネットワーク ▷「英語であそぼう」1,2年生「英語活動」</p>	～自覚的な学び～ ▷基礎的な知識・技能 ▷思考力・判断力・表現力等 ▷学びに向かう力、人間性等
育みたい力 4つの視点 ①自立 ②安心 ③仲間 ④成長	①自分も相手も好きになろう ②自分で元気な生活をつくろう ③きいて話して友だちを作ろう ④学びを楽しもう		①自分で考え判断し行動できる 学びの基礎づくり ②安心して学校生活を送る ③先生、他学年との人間関係を作る ④学習活動に意欲的にとりくむ
①の視点 【好きから自立へ】	▷自分や他人の良さを発見する活動 ▷人・もの・ことに 興味関心を持つ活動		▷一人ひとりのペースに合わせ、 15分単位の活動や弾力的な時間割で、 自分で学ぶ力を育む。
②の視点 【元気から 安心安定へ】	▷生活習慣、生活リズムを育む活動 ▷時間を意識した生活活動		▷こども園での体験(歌、体操、英語)を活用し、 安心できる環境で「わくわくタイム」 を実施する。 ▷こども会議を土台に毎日のミーティング 活動(朝、帰りのミーティング)で相互対 話交流の日常化。
④の視点 【楽しむから 成長へ】	▷遊びの中での文字や数の習得 ▷五感を育てる体験活動 ▷異年齢保育		▷縦割り活動や異学年ブロック学習活動、 全教職員、地域との関わりの中で、誰も が「多様な居場所」を感じながらすごす。

視点① 自立

自分で考え
判断し
行動できる



視点② 安心

安心して
学園生活を送る
ことのできる



視点③ 仲間

新しい仲間との
人間関係を
つくる・ひろげる



視点④ 成長

学習活動に
意欲的に
取り組むことができる



8, 卒園期～入門期の「架け橋プログラム」重点期間

卒園期での接続 (年長後半～3月)	入門期での接続 (～5月中心)	入門期から前期課程へ (5月～)
<ul style="list-style-type: none"> ・歌、運動、リズム遊び ・異年齢保育やごっこ遊び ・英語で遊ぼう、小学校で遊ぼう ・遊びを通した総合的な学び 	<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しみタイム」 学園生活を知り好きになる時間 ・「わくわくタイム」 生活科を中核とした、 合科的・関連的な学習をする時間 ・「チャレンジタイム」 教科ごとの学習に取り組み 意欲的に学習する時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・「お世話活動」から 自力登校、自力活動へ ・15分単位から40分、45分授業へ ・縦割り班活動開始 ・合科学習から、教科学習へ ・単式指導から複式、ブロック指導へ ・「学園づくり授業」等 全校総合活動への参加
(卒園期～入門期)軸になる「架け橋活動」		(入門期～前期課程へ)軸になる「架け橋活動」
<ul style="list-style-type: none"> ○学園生活をイメージする活動 <ul style="list-style-type: none"> ・体験入学、授業見学、給食体験、学園づくり授業への参加等で、学園生と積極的に対話、交流 ○自分の考えを言葉で表現する活動 <ul style="list-style-type: none"> ・「こども会議」で自分の思いを伝え、相手の話を聞かれる対話活動 ○規則正しい生活習慣を意識する <ul style="list-style-type: none"> ・午睡なし保育を開始、 家庭と連携しながら学園の生活リズムへ整える。 ○協働で保護者と家庭をサポートする <ul style="list-style-type: none"> ・チーム学園で「合同保護者面談」「応援会議」「支援引き継ぎ会議」等を設定し、どの子にも予防発達支持的サポート 		<ul style="list-style-type: none"> ○第1週「わくわくいっぱい」 <ul style="list-style-type: none"> ・国語(なかよしのき)・図工(わくわくするね) ・学活(あいさつ) ○第2週「学園探検」 <ul style="list-style-type: none"> ・算数(おおいのは)・書写(はじめての) ・道徳(ようこそ)・合科(名刺づくり) ○第3週「わくわくどきどき」 <ul style="list-style-type: none"> ・合科(先生紹介、サイン集め) ・体育(運動遊び)・外国語(英語であそぼう) ○第4週「1年生を迎える会へ」 <ul style="list-style-type: none"> ・体育(運動遊び)・音楽(校歌) ・生活総合(学園づくり授業、なかとんミーティング参加)等

13, おわりに



なぜ今、新しい学校が必要なのか？

私たちは、子ども達が「人生100年時代」をウェルビーイング（自己肯定感、心身の健康、社会貢献、自己実現）を持ちながら生き抜くための準備をする、新しい学校を創ります。

これは単なる建物の統合ではありません。未来の中頓別を担う、真の「人生100年の学びの拠点」の創造です。

私たちの目標は、予測不可能な未来においても子ども達が輝ける教育の基盤を築くことです。

人生100年の間の義務教育9年間（12年間）遊びを学びにつなぎ、地域社会へ還す取り組みを進めます。

命にかかわる悲しい今と未来を選択したり、考えたりする子どもをだれ一人生まない

学園にいる間だけでなく、15歳から先の姿が育みたい子どもの姿になっていることをめざします。